

陸上節足動物の多様性生物学

自然・環境科学研究所 山崎 健史



キーワード

系統分類学、クモガタ類、アリ擬態、熱帯雨林

研究概要

第6度目の大量絶滅期にあると言われる現在、「何が、どこに、何種類いるのか」といった基本的な重要であるものの、研究は世界的にも非常に遅れています。特に、生物多様性のホットスポットである熱帯でのインベントリー調査は、急務と言えます。私は、節足動物の中でも特にクモ類(クモガタ綱)に着目し、(1) 多様性のパターン解明、(2) 多様性の創出・維持機構の解明を目指して研究を行なっています。

(1) 形態学・分子系統学的なアプローチから、種レベルの多様性の解明を行なっています。

(2) クモ類にみられるアリ擬態という現象に着目し、どのようにアリ擬態をするクモの多様性が増加してきたのか、また、多種のアリ擬態クモ類がいかに共存できているのかという、進化生態学的なアプローチの研究を行なっています。

アピールポイント

多様性生物学は、基礎的で、かつ革新性を秘めています。例えば、近年、バイオメティックス分野では、生物が持つ様々な形態学的特徴を応用し、私たちの生活に生かしています。しかし、私たちが良く理解できている生物種は、地球上に生息している生物種のごくわずかにすぎません。生物の多様性を調べることは、それ自体に価値がありますが、様々な分野への応用可能性が秘められている重要なテーマでもあります。

応用分野

保全生物学、生態系サービス、バイオメティックス、環境教育



ハエトリグモ科



アリ擬態クモとアリ